

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171400326		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・蕨		
所在地	埼玉県蕨市錦町6-9-23		
自己評価作成日	令和4年9月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和4年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一向に取束の気配をみせないコロナに対し、職員一丸となり、ご入居者様が安心して過ごせるよう、職員も安心して仕事ができるように感染症対策に取り組んでおります。その甲斐があり今だコロナ感染「0」で過ごしております。コロナ禍において外出、面会の機会に制限がかかっておりますが、ご入居者様の心身機能の衰え防止の為、毎日施設では2回～3回「ALSOKあんしん体操」「口腔体操」を行い、その他、弊社健康増進サービス課による「ノーアエクササイズ」「AKトレーニング」「いきいきリズム体操」等、リモートと、講師の来訪とあわせておこなっております。体操により明らかに皆様の笑顔が増え身体機能向上に役立っております。ブログ発信によりご家族様にはご入居者様の施設での様子をご覧いただけしております。ご希望のご家族様にはリモート面会も行っており安心して頂いております。医療に関しては、往診医、訪問歯科・衛生士、医療連携看護師の訪問により職員と連携をとり、些細な変化も見逃さずご入居者様の健康維持に務めております。ご入居者様の日々の生活が単調にならないよう一人一人に合わせたレクリエーション、お手伝い等行って頂いております。お天気の良い日は近所の公園へ散歩に行き、四季を感じて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR埼京線「北戸田駅」より徒歩約9分のところにある、鉄筋コンクリート造3階建て1階は薬局、2階と3階が2ユニットのグループホームとなっている。閑静な住宅街に位置しており、近所にある「りんご公園」では子供たちが元気に遊んでおり、賑やかな雰囲気となっている。月2回の訪問診療があり、1回は利用者全員の診察、もう1回は個別診察で人数分の訪問をいただき、応急の診察も可能である。また、1階の薬局が随時対応してくれるので安心の健康管理体制となっている。コロナ禍のため面会制限があるが、遠くに住む家族とのリモート面会(ZOOMなど)が行われている。思うように外出できない状況にあるため、外気浴をして気分転換を図ったり、毎日の体操で心身の機能の低下を予防している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居様が笑顔で穏かにお過ごし頂けるためにも、安全を第一に見守り、出来ない事への支援を行っております。ご入居者様から信頼して頂けるよう寄り添い信頼関係を築く工夫をしております。毎月のミーティングで介護理念の共有をしております。	「ホッとする安心感」「笑顔かわす充実感」を理念に掲げ、毎回ミーティングで共有している。不安そうな利用者に寄り添って、会話や動作の中で笑顔が出るよう、「ここにいて安心、ここにいていいんだ」と思えるような支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において地域との交流がとれておりません。コロナ以前は地域のお祭り見学、ボランティアの受け入れ、クリスマス会等を開催しておりました。	コロナ禍で地域との交流が困難となっているので、何ができるかを考えている。行動は慎重に行っているため、現在までコロナ罹患者ゼロを維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において出来ておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において外部の方を招いての運営推進会議は開催が出来ず、市役所からは施設内会議議事録は保管するよう指示があり、ご家族様に施設内開催記録を送付しております。	従来のメンバー参加の運営推進会議はできていない。活動報告や予定・訪問診療日・利用者や職員の状況・事故報告などを議事録に残し、定期的に家族と市役所に報告している。	対面での開催は難しいと思うが、事前に関係者各所から聞いた意見を職員等で話し合った結果の報告と議事録を家族や行政・自治会等に配布するなど、工夫して開催されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からはメールで常に情報を頂いております。コロナワクチン4回目接種は隣の系列グループホームと連携を取り行うことが出来ております。	行政とは主にメールでやり取りを行っており、内容は研修の案内やコロナ関係の情報などである。感染対策パンフレットなどを送っていただいております、必要があれば電話などで対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を年4回、身体拘束適正化のための研修を年2回行っております。数回に分けて全職員が参加できるようにしており、身体拘束を行わずに出来る介護方法を常に考え、職員同士話し合いを行っております。	定期的に身体拘束委員会を開催しているが全職員が出席できないため、欠席者には議事録を確認させている。ホーム長は日々の業務の中で身体拘束の理解度を確認している。研修は数日設け、全職員が参加できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を年3回虐待防止研修を年2回行っております。虐待防止の為に、入居者様の言動の変化を見逃さず、職員間で申し送りをしやすい環境作りに取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社主催の研修に参加後、参加者より職員にフィードバックしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・退居に関しては、納得、理解頂けるようゆっくりと時間をかけて説明させて頂いております。あわせて救急搬送や外部受診の対応の説明も行い理解していただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様のご要望は日々の会話の中からくみ取り、職員同士共有して反映できるよう取り組んでおります。コロナ禍において面会、家族会が行われていないため、ご意見、ご要望等はメール、お電話でお気軽に頂いております。また、契約時相談・苦情窓口があることもお伝えしております。	利用者には日常会話の中で意見を聞いており、家族には電話やメール・zoom等で意見を聞いている。出された意見は職員間で検討したうえで運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の職員とのコミュニケーション、個別面談等で意見を聞き反映させております。必要に応じてマネージャへの報告も行っております。わずかな時間でも職員からの意見は聞くことができるようにしております。	ホーム長は就任前より職員と業務を共にしていたため、職員とのコミュニケーションは良好であり、何でも言い合える環境にあり、意見や提案を聞く機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	弊社の掲げる要綱を満たしていれば、人事評価や管理者の推薦により、昇進、昇格され、職員一人一人の希望等把握に努めております。今年度3名のパート職員が社員に昇格しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモートにより、法人内外の研修をうける機会を設けております。ケア方法の疑問は気軽に聞くことができるような環境づくりに取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において、現在は書面でのやり取りになっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前実態調査により、出来るだけ詳しくご本人様のニーズをお聞きしております。入居後は全職員でサポートさせて頂くむね、お話させて頂いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前実態調査時だけではなく、質問、疑問には何度でもお答えし、不安を取り除くようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のニーズに応えられるよう、可能なサービスのご提案をさせていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を心がけ、一人一人に必要な支援を行い良好な関係性作りに取り組んでおります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にご入居者様の情報を報告、共有することにより、良好な関係を築いて行けるようにしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、現在面会制限をさせて頂いているため、リモート面談、お電話で対応させて頂いております。	コロナ前は近所の知人の訪問があったが、現在は面会制限をしている。リモート対応で関係が途切れないように支援をしている。顔が見えて声が聞こえるリモートを不思議がる方もいるが、遠くの親戚と画面で話すことができ、喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の性格を把握したうえ、趣味趣向の合う方と座席配置を行っております。コミュニケーションをとることが難しいご入居様においては職員が介入して支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご様子についてはお電話、お手紙等でお聞きするようしております。必要によってはご家族様からの相談にも支援しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中からご本人様の希望を聞き出し、可能な限り希望に添えるよう支援を行っております。聞き取り困難なご入居者様には、ご家族様に聞き取りを行っております。	入居前の実態調査で利用者と家族の意向を確認し、入居後も様子を見ながら確認している。聞き取り困難な方からは家族から聞き取りをして、普段の様子を観察しながら、より良い生活が送れるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査により、ご本人様、ご家族様からの聞き取りでこれまでの暮らしの把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を観察、記録することにより、職員同士が情報共有し現状の把握しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様のご要望を伺い、計画作成担当者が職員と介護計画について話し合いプランを作成しております。心身状況の変化がみられた場合は再度カンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っております。	計画作成担当者が中心となって1年ごとに計画書を作成している。1年の間に変化がある場合は、その都度カンファレンスを行い見直しをしている。直近では病院から退院される方の計画を見直す予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・食事摂取・排泄記録・申し送りノート、その他、口頭での申し送り等で情報共有を行っており、活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に必要なニーズに応えられるよう、多方面からの支援を行っております。外部医療受診、訪問理美容、訪問マッサージ等支援をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	費用面での節約や、様々な行政サービスのご利用を提案しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も入居前かかりつけ医への受診はご家族様対応にて引き続き受診頂いております。入居時より施設訪問医との契約をして頂き、内科月2回、歯科月2回、歯科衛生士月4回、医療連携訪問看護師月4回のケアを提供しております。	月2回の訪問診療があり、1回は利用者全員の診察、もう1回は個別診察である。訪問回数が多いので健康面で気になることがあれば臨時対応が可能である。希望する病院や必要な科の受診は家族対応で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携訪問看護師が月4回訪問、個々の状態を確認して、必要な場合は訪問医に連絡報告、連携しケアにあっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前は、ご入居者様が入院された場合、面会に行かせて頂いていましたが、現在はコロナ禍で面会中止の為、病院のソーシャルワーカーに連絡、情報収集に努めております。早期退院に向け本部看護部との連携も図っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合、医療行為をご希望であれば他の施設、病院をご案内しております。施設でのターミナルケアは、ご家族様、主治医との協議により決定しております。	重度化した場合、事業所での看取りの希望を確認して、対応が可能であれば訪問診療や訪問看護・職員のチームで支援を行っている。医療行為が必要であれば、病院等に案内をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についてはミーティングを行い日々に備えております。連絡網を活用し本社・本部への連絡は1時間以内に行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、夜間、災害、水害の想定で避難訓練を行っております。定期消防設備点検、消化器取り扱い方法を学んでおります。	年に2回の防災訓練を行っている。1回目は1月に夜間での火災を想定しており、2回目は来年を予定している。備蓄は2階と3階に分けて常備している。	災害はいつ起こるか分からないため、全職員がパニックにならないよう定期的な訓練が必要である。大きな災害では消防などの支援が困難となり、近隣の助けが必要となるため地域との協力体制の構築が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に接遇マナー、その他研修を受け、個人の尊厳、プライバシーの重要性について学んでおります。排泄、入浴介助では出来る限りご利用者様と同性の職員による介助が出来るよう取り組んでおります。	職員は接遇マナー研修で言葉遣いなどの研修を受けて、口調に気を付けている。排泄時はドアを閉めて対応し、誘導は小声で行っている。入浴拒否の方には声かけを工夫し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が自主発言しやすいように日頃からコミュニケーション作りを大切にしております。ご入居者様の希望を叶えられるように、選択肢を多く提案させて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的にレクリエーションの参加を促すようなことはせず、その日の個人の気持ちを大切にしております。ADLの低下を防げるよう、体操・塗り絵等、選べる工夫も行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様にお好きな服装等、お選び頂いております。季節に合わせた服装選びは職員が提案させて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューが増えたことで、毎日の食事が楽しみになり、食事量も増えております。ご入居者様一人ひとりの形態にあわせ、ムース食、ピューレ食にも変更でき安心してお食事を召し上がって頂いております。食器ふき、おやつ作り等も一緒に行っております。	食事のメニューが豊富で刺身の提供をするなど、利用者に満足いただいている。季節に合わせた食事を心がけており、ブログでは敬老の日の天ぷらを紹介している。ホットプレートでおやつ作りをするなど、食事が楽しみなものになるよう、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取表を活用し、一日の摂取状況が分かるようにしております。職員間でご入居様の情報を共有し一日を通して摂取量が確保できるよう取り組んでおります。代替えの検討も行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の歯科医師往診、月4回の歯科衛生士往診を行っております。毎日のケアはご自身で行って頂き、できない方、できない箇所は職員がお手伝いさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表と職員申し送りにより、個々の排泄パターンを把握して、声掛けやトイレ誘導を行うことにより、スムーズな排泄が出来るよう取り組んでおります。出来ないところだけを介助し、排泄中は外で待つなど、自尊心に配慮しております。	利用者個々に合った排泄の支援を行っている。定期的な誘導や自立している方の排便の様子など、さり気なく確認している。ベッド上でのオムツ交換は定期的に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用して排便状況を把握しております。水分量や食事量、運動量をあわせて考慮しております。場合によっては医師に報告、お薬の処方を検討して頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りご入居者様の希望の時間、曜日に入浴して頂けるように行っております。無理はせず、同性職員による介助が出来るよう取り組んでおります。入浴後には爪切りの支援も行っております。「ゆず」等を入れるなど、季節を感じて頂いております。	入浴は午前と午後に分けて行い、希望の時間などがあれば応えている。入浴を拒む方もいるが無理強いはず、工夫して対応している。入浴剤の利用で色や香りを楽しんだり、柚子湯などで季節を感じたりと、楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のお好みに合わせた寝具をお使いいただき、入眠しやすい環境作りに取り組んでおります。毎日の気温、ご本人様の希望にあわせてエアコンの使用も行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師による集団往診、個別往診に職員立会い薬事情報を活用、一人ひとりの情報把握を行っております。状態に変化がみられた際は、かかりつけ医に連絡し指示を仰いでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせたレクリエーションや、お手伝い等を見極め、毎日が単調にならないよう、ADLが低下しないよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出がなかなか出来ないような状況ではありますが、お天気の良い日は近所の公園まで散歩に行くなど、多少でも外気に触れ、気分転換を図れるよう取り組んでおります。	コロナ禍のため、外出は近くにある公園の散歩程度となっている。他科の受診の際には家族と外出しているが、外泊は控えていただいている。コロナ前は外食など頻繁に行っていたので再開を待ちわびている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在契約の際、現金のお預かりはお断りしております。紛失防止、他の入居者様とのトラブル防止の為に、ご本人様もお持ちにならないようお願いしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時、ご家族様承諾のもと携帯電話を持参されたご入居者様には、自室にてお使い頂いております。その他のご入居者様もご家族様からご希望があればお取っ組みしております。お手紙もご希望があれば投函、受渡しを行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は常に清潔を心がけ、整理整頓・清掃に取り組んでおります。季節に合わせた塗り絵、壁画の作成を職員と一緒に、季節の移りかわりを感じて頂いております。快適にお過ごし頂けるように、エアコン、低濃度オゾン、空気清浄機を気候にあわせ使用しております。	共用部のフロアは明るく清潔感があり、テレビで映画やユーチューブでの体操・歌などを楽しんでいる。空調の温度は夏は28度、冬は22度に設定し、快適に過ごせるよう管理している。壁には季節毎に折り紙などを作成し、掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格を把握し、気の合う方と同じテーブルにするなどの工夫をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご自宅で使用されていた思い入れのある家具等を持参して頂く事により、新しい生活にスムーズに移行出来るよう支援させて頂いております。馴染みのある物が側にあることで不安を解消し、安心して過ごして頂いております。	居室には本人の描いた絵、お気に入りの本、ぬいぐるみなど、好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。好きな化粧品を持ち込んで化粧を楽しむ方もいる。掃除は職員が行い、清潔を保てるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは分かりやすいよう大きな字で貼り紙をしております。居室のお名前も同様、一人ひとりに合わせ、わかりやすいようお名前を書きドアに貼らせて頂いております。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍において、対面での運営推進会議、家族会を開催出来ていない。	活動報告、意見交換を行える場面を設ける。	事前に会議参加者の体調確認を行い、アクリル板を活用し、開催が出来るように取り組みを行う。開催が難しい場合は、関係各者に活動報告書を送付して、ご意見ご要望を記入、返信して頂き、今後の取り組みに生かして行きたい。	12ヶ月
2	35	災害時におけるご入居者様の、迅速な避難対応。	自治会、近隣住民の協力体制の構築。	コロナ禍において、自治会、近隣住民と交流が取れていない為、運営会資料の配布を行い、施設運営に、ご理解ご協力を頂き、災害時には支援して頂けるように、取り組みを行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。